被害写真了。口心上内以牛造林木



10



スギ(プロット旬造林木)



生白岳 国有林 163 林班 31 小斑 内 (説明) 861 4 14日 撮影/ シカ 12よ3 会害木

# 技術開発課題完了報告書

課	題	名	獣	害防	除法	長 (鹿の	害)						
課	題区	分		指	示	開発期間	昭和59	~61年度	担当	綾	営	林	署
目	野兎	害の防除り	てつい	ては,	ポリネッ	トを中心	に検討して	きたが,十	-分を効	果を得	るに	至っ	てい
	ない。	最近鹿に、	よる被	害も増	加してお	- り野兎害	の防除と併	せて事業们	とに即し	た効果	的防	除法	を確
標	立する	o				1							
結	忌避	削を直接浴	±#*	10 36 to					7 ) »===	a lo =2			
和		/I) C IE 19.X	ロルハハ	化堡布	したフロ	ットは、	塗布後60日	程度は効果	そが認め	られる	から	7月	調査
和	は939						塗布後60日 ,,防除効果				カュ,	7月	調査
杯口	kt 9 3 9										カュ,	7月	調査
**\(\overline{\pi}\)	は939										が,	7月	調査
Æ Æ	は930										カ*,	7月	調査
₹N¤	は939										カミ,	7 月	調査
Æ .	は939										⊅š,	7 月	調査
和 果	は939										⊅≟,	7 月	調査
	は939										⊅≟,	7 月	調査

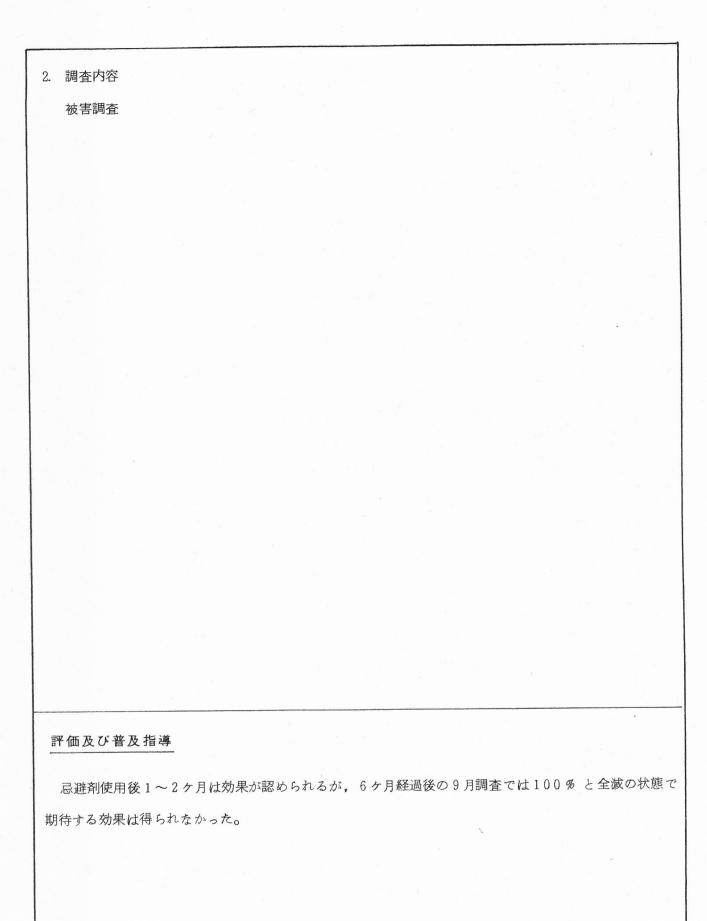
### 開発経過と調査内容

## 1. 開発経過

昭和60年3月に、標高800m の前生樹林齢132年生のモミ,ツガ,その他広葉樹の天然林跡地1.13haにヒノキを植栽した。

植栽後直ちに忌避剤TMTD剤(アンレス乳剤)を使用した効果試験地を設定した。

試験地は、16プロットを6種類に区分して、地形等をできるだけ同一条件になるように配置した。



#### 1. はじめに

かもん

当地方は、宮崎県のほぼ中央部に位置し、掃部岳、大森岳一帯の天然広葉樹を主体とする暖帯林 地帯である。全体的に地形は急峻であり、鹿の生息地となっている。

近年、収穫区域の奥地化に伴い、スギ、ヒノキ新植地での鹿による食害が激増している。この被害を最少限度に防止するためにワナ等による有害獣駆除を実施しているが被害は減少していない。 鹿を捕獲しないで被害を防止する方法として、「TMTD剤(アンレス塗布剤)」を使用し、その効果試験を試みた。

#### 2. 試験地設定

- (1) 設 定 昭和60年3月
- (2) 場 所 宮崎県東諸県郡国富町 茶臼岳国有林 163ろ1 林小班
- (3) 面 積 1.13 ha
- (4) 地 況 標高 800 m 方位 E 傾斜 中 基岩 頁岩 土壌型 BC
- (5) 林 況 前生樹種, 林齢132年生のモミ, ツガ, その他広葉樹の天然生林
- (6) 設定方法

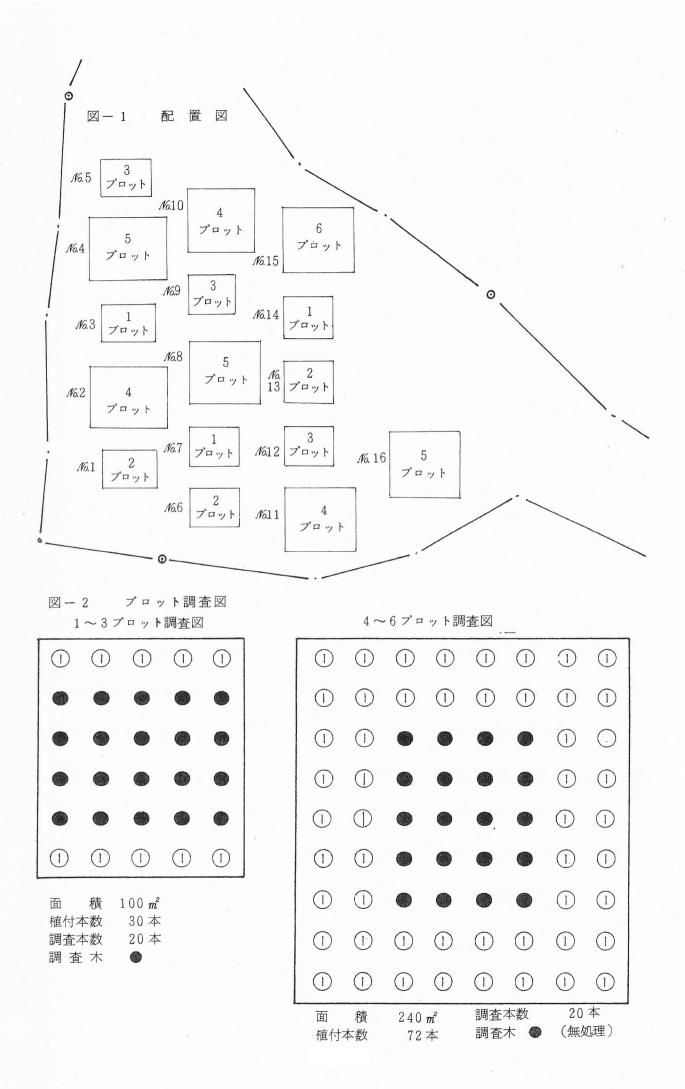
ア、樹種 ヒノキ

イ、忌避剤 TMTD剤(アンレス乳剤)

ウ、プロット数 16を6種類に分け、地形等をできるだけ同一条件になるように配置した。

表-1 プロット別処理内容表

プロット	内容	プロット番号
1	無 処 理	No. 3. 7. 14
2	造林木梢端部全面薬剤塗布	No. 1. 6. 13
3	造林木上部 2/5 梢端部薬剤塗布	No. 5. 9. 12
4	周囲造林木梢端部全面薬剤塗布 (調査木にはアンレス塗布はしない)	No. 2. 1 0. 1 1
5	周囲造林木上部 2/5 梢端部塗布 (調査木にはアンレス塗布はしない)	No. 4. 8. 1 6
6	無地拵, 無処理	No. 1 5.



## 3. 調査結果

表一2及び表一3のとおり

- (1) アンレス塗布の調査木は、60日程度は薬効が認められるが、それ以降の薬効は著しく減少する。
- (2) 薬剤塗布の場所は梢端部全体でも上部 2/5程度でも薬効の差は認められない。
- (3) 無地拵・無処理区の10月までの被害の少ないのは枝条及び雑かん木の旺盛な繁茂による障害物が大きく影響しているものと考えられる。

表一2 月別被害本数調查

プロット	16.	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	3 月	計
	3	2本	16本	20本	20本	20本	20本	2 0本	20本	20本
	7	7	17	2 0	2 0	20	2 0	20	2 0	2 0
1	1 4	3	1 0	19	20	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	小計	12	4 3	5 9	60	60	60	6 0	6 0	6 0
	1	0	4	17	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	6	0	1	1 7	19	2 0	2 0	20	2 0	2 0
2	1 3	0	1	1 4	17	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	小計	0	6	48	5 6	60	6 0	6 0	6 0	6 0
	5	0	1	1 5	17	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	9	0	2	18	2 0	20	2 0	20	2 0	2 0
3	1 2	0	0	18	18	18	2 0	20	2 0	2 0
-	小計	0	3	5 1	5 5	5 8	6 0	6 0	6 0	60
	2	9	18	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	- 6	11	1 9	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
4	1 1	8	1 4	2 0	2 0	2 0	2 0	20	2 0	2 0
	小計	2 3	4 3	5 9	6 0	6 0	6 0	6 0	6 0	6 0
	4	2	1 4	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	8	3	11	18	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
5	1 6	0	12	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0
	小計	5	3 7	5 8	6 0	6 0	6 0	6 0	60	6 0
C	1 5	0	1	5	8	11	1 4	1 4	2 0	2 0
6	小計					H				
THE STATE OF THE S	†	4 0	133	280	299	309	3 1 4	314	3 2 0	3 2 0
比 ≥	<b>率</b> %	1 3	4 2	8 8	9 3	9 7	98	98	100	100

プロット種類別の被害本数率										
調査月 種類	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	3 月		
1	2 0	7 2	98	100	100	100	100	100		
2	0	10	8 0	93	100	100	100	100		
3	0	5	8 5	9 2	9.7	100	100	100		
4	3 8	7 2	98	100	100	100	100	100		
5	8	6 2	9 7	100	100	100	100	100		
6	0	5	2 5	4 0	5 5	7 0	7 0	100		
平均	1 3	4 2	88	93	97	98	98	100		

- 1) 直接造林木塗布は、60日位は薬効が大である。
- 2) 無地拵無処理箇所は、薬剤と同様の効果が出ている。
- 3) 1年後はどのプロットも100%被害となった。

#### 4. 考 察

忌避剤使用箇所は7月調査では93%,9月調査では100%の被害である。

無地拵・無処理区も9月までに70%,3月では100%と全プロットとも全滅の状態で効果があるとは考えられない。

現在、開発されている忌避剤等による防除は期待できないので獣害地区については、皆伐を避け、 択伐による天然更新等森林施業を検討する必要がある。また、人工林に誘導する必要がある場合に は、コナラ、クヌギ、アカマツ等の大苗植栽など造林樹種の選択に留意するとともに、無地拵、坪 刈など保育作業の改善等々、組合せを行い成林が期待できる林業的防除方法を究明したいと考えて いる。

